

高倉昔ばなし芝居

高倉郷土芸能保存会

平成二十年二月三日

公民館芸能発表会於

十二番 観音堂建立記之一

解説

今から274年前の享保十九年のこと高倉の観音堂が建っていたと、伝えられる、当時の武州高麗郡白子村の長念寺では、寺社奉行 黒田豊前守直邦の弟の延貞の供養の為、この観音堂を新しく建立された。そして高倉寺五世 白翁亮清和尚は、

開幕

亮清

「やあやあ村の衆お忙しゅうにようこそ集まってくだされた、実はな、当山二世 泰州広基様が感夢江戸の芝増上寺から勧請されたと伝えられる震丹伝来と云う観音像、この尊像だがおなかの中にお腹ごもりと云う一寸八分の金の観音像が入っている、しかしこれを見ると目がつぶれると云うので皆さんに見せる事は出来ない。三世様も四世様もこの尊像をお祀りするお堂が念願であったがこれを果す事は出来なかった。

ところがこの度二世の居られた白子村の長念寺ではな観音堂が立替られ既に古材が積み込んであり高倉へ譲ってもいいとの事だでな、わしも良く知っている見事な御堂なのでな、是非譲り受けたいと思っている。

皆の衆ひとつ骨を折ってもらいたい。名主の政工門殿、皆と図ってもらいたい。是非是非お頼み申す」

名主

「さあみんな、そう云う訳だ坊様の頼みだ、みんな話し合っけて見てくれや、先ず源さんあたりやどう思うい」

源 「名主様 そう急に云われたっておらあ長念寺や知らねえだ、みんなあ
行ったもんは居んのかや」

みんな首を振る

源 「みんな、いかげんで首振りや止めやあ 名主様、どんなお堂だか見い
行つて来ねえことにやあ始まるめえ、そいから高倉のもんのおえる
もんだかどうか考えたらどうだんべー」

名主 「うーんまあそりやそうだ、じゃあ明日にも幾人かご苦労だが行つて見て
来てもれえてえ うーん 先ず清さんあたりやどうだい行つてくんねえかい」

清 「名主様あ おらあ申しやあけねえが夕んべ背骨とアバラがおつ外れちやつて
などうもあんべえが悪いだよ悪いけんど誰かほかのもんに行つてもれえて」

名主 「あんだかよう、そりやあ大事だあ、それにしちやあ元気あいいなあアハハ
ハハハハ、平さんなあどうだい」

平 「あーに おらがじゃあ名主様、夕んべ猫の子がいらできちやつてな猫の親に
頼まれちやつただよう」

名主 「うーん あにゆう頼まれたちゆうだよう」

平 「あんつたつて、平ニヤン ニヤンときたーい この生まれっ子の乳くれえ
頼まあニヤン ニヤンと泣かれちやつただーい」

『ア それ、西の赤坂ひとまたぎ

笹井の渡しあ舟をこぐ

アアギツチラ 、、、、、、

コツト

ア 中山街道あ からっ風

アアプウプウ 、、、、、、

プーツト

ア 鹿山の山路あ 尾根続き

台の不動さんねえ心願かけりや

きつと明日あ金が降るってか

そんない事ねえもんか

ア 高麗川渡りあ 横手村

アア 横手に過ぎりあ白子村つと』

源 「ああ もう白子村だあ」

清 「ああ 長念寺と書いてあらあ」

平 「へーえ すごえやあ これが今こんだ出来た観音堂だ」

源 「ああ和尚様ごめんくらっしえ、高倉村の寺から来たもんだけんど古い観音堂の木う見せてくらっしえ」

源

「うーんそりゃあいあんべえだ是非頼まあ、ああもう借りて来たあ」

ニンバで 魚を釣り、狐に魚を石に替えられる
気づかず三人は踊りながら花道を引っ込む

四丁目 閉幕

解説

川で釣った魚をカワウソに取られたり、お不動で河童に下駄をかまれた
等々昔は老人のお得意の話が面白かった。
この三人も寺の大切なご用の帰り路なのに川遊びと云うのんびりした
風景が伺われます。
今日は高倉観音堂建立のごく始まりのお話でした。有難うございました。

おわり

登場名

配役

高倉寺五世	白翁亮清
名主	政工門
村人	源工門
1	
2	清吉
3	平三
他	

狐 長念寺 僧